

1 組織

- (1) 東京都立上野高等学校学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 副校長及び総務主任 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任兼務）、主幹教諭（生活指導主任兼務）、
主幹教諭（進路指導主任兼務）、主幹教諭（総務主任兼務） 計7名
- (4) 協議委員の構成
区監査委員、学校法人教務本部長、近隣中学校長、塾経営者、近隣寺院住職、近隣町会会長、同窓
会副会長、PTA会長 計8名

2 平成26年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 平成26年6月23日（月） 内部委員5名、協議委員5名

授業参観、協議委員委嘱、委員紹介(自己紹介)、平成25年度学校運営連絡協議会実施報告、平成26年度学校経営計画報告、本校の現状と課題の説明、評価委員の選出、協議

第2回 平成26年11月25日（火） 内部委員6名、協議委員5名

授業参観、生徒による授業評価についての検証、学校評価について、評価アンケート案検討、本校の教育活動についての現状分析とその対応、協議

第3回 平成27年3月2日（月） 内部委員6名、協議委員5名

平成26年度教育活動報告、学校評価アンケート結果報告、協議

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

評価委員については、広く評価について意見を伺う趣旨で、協議委員全員に兼務をお願いすることとした。

第1回 平成26年6月23日（月） 内部委員5名、協議委員5名

評価委員の選出、学校評価の趣旨説明

第2回 平成26年11月25日（火） 内部委員6名、協議委員5名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討

第3回 平成27年3月2日（月） 内部委員6名、協議委員5名

学校評価アンケート中間まとめの報告、次年度の学校評価の実施に向けた内容検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価アンケート実施方法

①学校評価の観点

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、部活動・特別活動、健康・安全に対する指導、施設・設備及び読書活動の計8項目について、各々4段階で評価してもらった。

生徒用、保護者用、教職員用及び地域用のアンケート集計結果をそれぞれ別紙1～4に示す。

②アンケート調査の実施時期・対象・規模

12月 生徒 926人／947人（回収率 97.8%）

12月 保護者 296人／947人（回収率 31.2%）

12月 教職員 54人／54人（回収率 100%）

12月 地域 29人／29人（回収率 100%）

(2) 評価結果の概要

①学校運営に関すること

「学校の教育目標を知っている」と回答した生徒は82% (89.3%)、保護者は89.5% (85.9%)であった。また、「学校での生活は、充実し、満足している」と回答した生徒は80% (86.3%)、「日常の教育活動に、地域や保護者の意見や要望が取り入れられている」と回答した保護者は71.9% (71.3%)、教員は64.8% (75.5%)、地域は37.8% (25%)であった。今後は、地域に本校の教育活動を積極的に公開し、地域との連携を強化して、学校評価や様々な提言を生かした学校運営を推進する。

②学習指導に関すること

「年間授業計画に基づいた『わかる授業』が行われている」と回答した生徒は73.2 (78.2%)で昨年度より肯定的な意見が減少した。『『わかる授業』を行うために、教材や教え方に様々な工夫がされている」と回答した保護者は76.4% (73%)である一方、教員は96.3% (95.9%)であった。数値から見ると保護者・生徒と教員で乖離がみられる。生徒の興味関心を引き出すために、ICT機器のさらなる活用等、引き続き授業改善を図る必要がある。また、生徒の家庭学習に対する取り組みについて、さらに保護者に協力を求め、取り組んでいくが喫緊の課題である。

③生活指導に関すること

「学校での生活指導は適切である」と回答した生徒は60.4% (75.2%)、保護者は85.5% (78.5%)である。また、「学校での生活指導が自分(生徒)の将来に有益である」と回答した生徒は59.6% (74.7%)、保護者は85.8% (84.5%)、教員83.3% (100%)であった。保護者の肯定的な数値は上昇したが、生徒・教員は減少した。このことは、頭髪指導の具体的な取り組みを明確にした結果が一因であると推測される。保護者は肯定的意見が85%以上と昨年度比較最大7%上昇した。保護者には本校の生活指導の取り組みが概ね理解されていると考えられる。

④進路指導に関すること

「自分(生徒)の将来を考えるために必要な指導・助言がされている」と回答した生徒は72.9% (79.2%)、保護者は79.4% (80.7%)である一方、「生徒が将来を考えるために必要な指導・助言をしている」と回答した教員は92.6%であった。また、「保護者との連携を密にしながら、進路指導が行われている」と回答した生徒は52.6% (58.4%)、保護者は61.5% (61%)である一方、「保護者との連携を密にしながら、進路指導を行っている」と回答した教員は77.8% (79.6%)であった。

生徒・保護者は概ね適性に合った進路指導がなされていると感じている。保護者へはさらに本校の進路指導について理解を得られるよう対応していく必要がある。また、生徒への伝達が単にプリントの配布に終わっていないか、プリントの内容を教職員の言葉に直して生徒に伝達しているか、学年通信等の発行頻度は前年度に比べてどうか、面談等の指導の時間は確保できているか等の対応策を検討していく。

⑤部活動・特別活動に関すること

「部活動や学校行事への取り組みが、学校生活の充実につながっている」と回答した生徒は83.3% (86.1%)、保護者は88.5% (93.9%)であり、概ね高評価を得ている。また、「ホームルーム活動が活発に行われている」と回答した生徒は、69.9% (75.2%)、保護者は75% (77.9%)である一方、「ホームルーム活動が活発に行われるよう工夫している」と回答した教員は81.5%であった。「協調性・社会性」、「忍耐力・根気」や「自主性」を養うためにも、行事や部活動をより一層充実させる必要があるとともに、ホームルーム活動の更なる改善が必要である。

⑥健康・安全に対する指導に関すること

「生徒の健康管理や安全指導などの充実に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は72.1%、保護者は80.7%である一方、教員は92.6%であった。また、「生徒が抱える様々な悩みに、適切に対応している」と回答した生徒は61.1%、保護者は65.5%である一方、教員は87%であった。肯定的な意見の数値は低くないが、生徒・保護者と教員の意識にズレがある。スクールカウンセラーとの連携を一層強め、組織的な相談体制をより整備し、生徒の相談に迅速に対応できる環境づくりを推進していく必要がある。

⑦施設・設備に関すること

「敷地内や校舎内の清掃は行き届いている」と回答した生徒は64.5%、保護者は75.3%ある一方、教員は89.1%であった。また、「学校の施設や設備で壊れた所は、すぐに修理されている」と回答した生徒は64.1%、保護者は73%である一方、「学校の施設や設備で壊れた所や危険な箇所は、すぐに修理や改善を依頼している」と回答した教員は83.3%であった。修繕は経営企画室が迅速に対応したり、清掃活動も保健員会を中心に活動できている。生徒の肯定的な意見の数値が低いのは、校舎の老朽化が要因と推測される。環境美化について物理的な施設整備の面からも抜本的に検討し、改善を目指す。壁の塗装や、雨漏りの対応、床の張替えなどは喫緊の課題ととらえている。

⑧読書活動に関すること

「図書館の利用や授業等を通して、読書の習慣が身に付いている」と回答した生徒は34.7%、保護者は50%、「図書館の利用や授業等を通して、生徒に読書の習慣が身に付くよう工夫している」と回答した教員は55.5%であった。読書月間、ビブリオバトル、図書委員会の活動等の取り組みを通して読書に主体的に取り組む態度の育成をしているが、現状は読書習慣が身につけていない。課題解決のために、読書等が主体的にできるよう各教科の授業等において文章理解や調べ学習等の指導を推進していく必要がある。

⑨その他

全体的にみると、肯定的な意見が概して昨年の数値より今年の数値の方が減少している。特に生活指導に関することの「学校での生活指導は適切である」は生徒の肯定的な意見が昨年度比較で15%減少した。このことは頭髪指導の具体的な取り組みを明確にした結果が一因であると推測される。保護者は肯定的な意見が85.5%と昨年度比較7%上昇した。保護者には本校の生活指導の取り組みが概ね理解されていると考えられる。生徒、保護者、教員の三者の結果を比較すると、「そう思う（あてはまる）」「ややそう思う（ややあてはまる）」の合計値はほぼ同じ傾向を示すが、教職員の結果が他の二つと異なり、「そう思う（あてはまる）」の比率が高く、生徒、保護者は、「ややそう思う（ややあてはまる）」の比率が高くなる。たとえば、学習指導に関することで「年間授業計画に基づいた「わかる授業が」行われている」と回答した生徒は73.2%、「分かる授業」を行うために、教材や教え方に様々な工夫がされている」と回答した保護者は76.4%である一方、教員は96.3%である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

①学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 広く教育について充実した協議ができた。
- ・ 本校の教育活動の成果を共有化できた。
- ・ 生活態度（頭髪・服装・挨拶等）について、率直な意見を聞くことができた。
- ・ 進学実績向上の現状把握と今後の課題について協議できた。
- ・ 授業や家庭学習についてのアンケートで生徒の学習の実態や授業に対する評価がわかった。

②学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 家庭学習の習慣づけを、学校・家庭が連携協力して行う必要がある。
- ・ 生活指導の充実をより一層図る必要がある。（服装指導・頭髪指導・マナー指導等）
- ・ 進学実績のさらなる向上を図る必要がある。
- ・ 地域への広報活動をより一層進めていく必要性を認識できた。
- ・ 学校行事の精選をする必要性が明確になった。
- ・ 教師と生徒のコミュニケーションを充実させきめ細かな指導をおこなう必要性を認識できた。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- ①学校運営 地域に本校の教育活動を積極的に公開し、地域との連携を強化して、学校評価や様々な提言を生かした学校運営を推進する。
- ②学習活動 「学力スタンダード」に基づいた授業改善を行うとともに、補講・補習や講習を一層充実させ個に応じた学力向上と、進学に向けた学旅行の向上を図っていく。
- ③特別活動 「協調性・社会性」、「忍耐力・根気」や「自主性」を養うためにも、行事や部活動を一層充実させる。

- ④生活指導 段階的な指導により、生活指導の徹底を図るとともに社会性・規範意識を育成し、自転車通学のマナーや交通安全指導について一層重点的に指導していく。
- ⑤進路指導 キャリアガイダンスをはじめ、キャリア教育を推進し、生徒が自らの将来を考え個性や適性に合った進路を選択できる力を育てていく。
- ⑥地域連携 奉仕体験活動や地域行事への参加をはじめ、様々な地域との交流活動をさらに推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

①協議委員 8 人

②学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
8						

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

8 その他

- ・ 保護者・地域住民のさらなる協力を求めていくためにも、今年度のアンケート結果・改善策を保護者全世界帯、地域に配布等を行う。
- ・ 地域住民の意見の中に服装・頭髪等身だしなみに対する意見が見られる。生活指導の充実、生活指導方針の周知を行う必要がある。
- ・ より広く地域住民の意見を聞くために、アンケート依頼の数、方法等に工夫が必要である。
- ・ アンケート項目の精選、表現の工夫、質問意図の明確化をさらに進めていく。
- ・ 自由意見欄の記述は参考になる意見が多かった。